

## みかけの大きさに及ぼす色と素材の影響

芦澤昌子 ○潮見弘子 岩戸純子

(青葉学園短大)

〈目的〉 同じデザインの服を着装しても紺の服を着るとやせてすっきり見えたり、黄色の服を着ると太って見えたりという色による心理効果があると言われている。見ための大きさに色と素材の影響があるかどうか、先に平面で実験を行なったので、人が被服を着用することを考え、立体で検討した。また、環境の明るさがみかけの大きさにどのような影響を与えるかも実験した。

〈方法〉 我々が日常用いている生地の中から平織のブロード、光沢のあるサテン、毛足のあるテリークロスの3素材を用い、色は白・黒・青・緑・黄・赤の6色を用いた。環境の明るさの影響も考え、1000lxと101lxの2段階の照度で行なった。刺激は円錐形に各種素材をはりつけて製作し、標準に対してのみかけの大きさを調べた。

〈結果〉 見かけの大きさに、色、素材、照度がどの様に影響しているか実験計画法を用いて分析した。その結果主効果では色と素材が1%で有意差があり、交互作用では素材と色は1%、素材と照度は5%で有意差ありとなった。見かけの大きさに対してテリークロスの白が最も大きく見え、ブロードの黒が最も小さく見えた。素材別ではテリークロスが最も大きく見え、サテン、ブロードの順であった。

趣好調査を立体サンプル18個を見せて行った結果は①サテンの黒、②ブロードの黒、③テリークロスの黒とブロードの青の順であった。また、服種別に好きな素材と色を調査した結果、パーティドレスでは朱子織の黒、外出着では平織の黒、日常着では平織の黒が1位であった。